

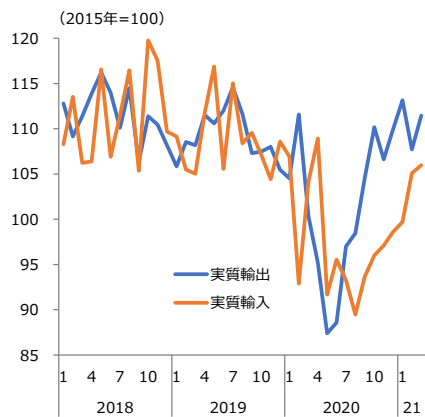
## 日本

## 貿易統計 (2021年3月)

## 輸出は緩やかに増加、半導体・米中対立の波及がリスク

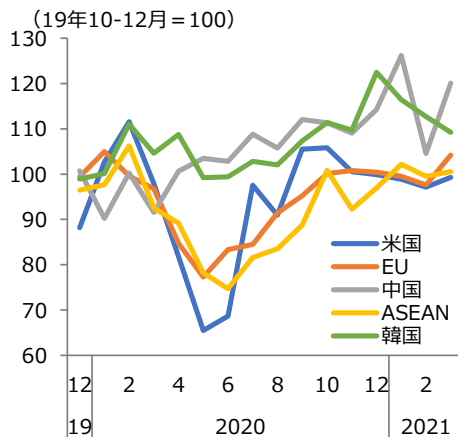
政策・経済センター  
綿谷謙吾  
03-6858-2717

## 1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 2 実質輸出：国・地域別

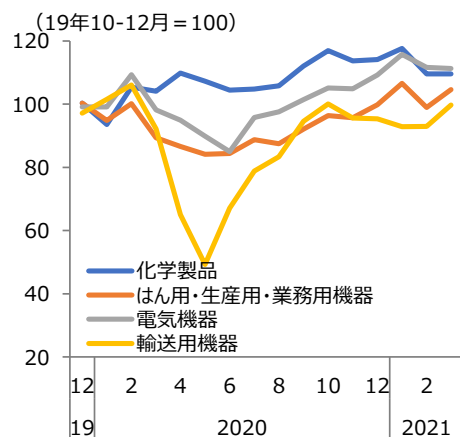


## 評価ポイント

## 今回の結果

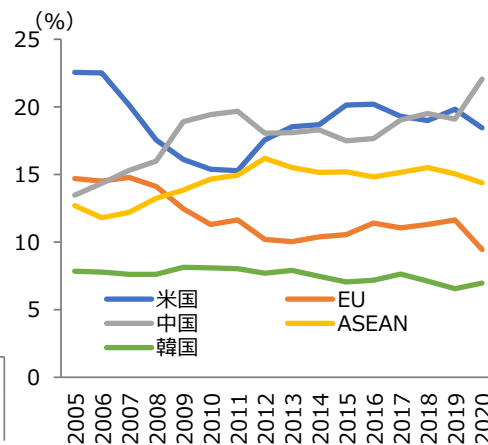
- 21年3月の実質輸出（当社による季節調整値）は前月比+3.5%、実質輸入は同+0.8%（図表1）。輸出は前月の特殊要因（中国春節、米国寒波）からの反動で増加。均してみれば増加ペースは緩やかになりつつある。
- 四半期では、実質輸出（当社による季節調整値）は前期比+1.7%、実質輸入は同+6.5%。21年1-3月期のGDPでは外需寄与はマイナスの見込みだ。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別でみると、経済回復の早い中国向けが輸出を牽引する状況は継続（図表2）。米国向けは、2月の寒波影響の反動で3月は増加した。
- 品目別（当社による季節調整値）では、輸送用機器は増加（前月比+7.2%）。自動車向け半導体供給制約から減産の動きも、3月時点では影響は顕現化していない（図表3）。

## 3 実質輸出：財別



注：当社による季節調整値。  
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

## 4 主要国・地域の輸出シェア



出所：財務省「貿易統計」

## 基調判断と今後の流れ

- 輸出は、国内外で感染が拡大するなか、緩やかに増加している。
- 先行きは、緩やかな回復継続を予想する。米国では、追加経済対策（約1.9兆ドル）が成立し、更なる経済対策も検討されている。大型経済対策により米国経済の回復ペースは今後早まるとみられる。これまでは、経済回復の早い中国が輸出の回復をけん引してきたが、今後は米国向けが輸出回復をけん引するだろう。
- リスクは、①半導体需給ひっ迫の長期化、②米中対立の日本への波及だ。
- 半導体需給のひっ迫は、輸出の約2割を占める輸送用機器への影響が大きい。自動車向け半導体供給不足が長期化すれば、関連産業への波及も含め輸出・生産の下振れ要因となる。また、日本の国別輸出シェアをみると、中国が再び米国を抜き1位となった（図表4）。バイデン政権後も米中対立は継続しており、中国経済が下振れした場合、輸出の回復は鈍化するだろう。